

国際学友会の歩み

財団法人 国際学友会

国際学友会の歩み

目次

会長挨拶	1
歴代役員	2
組織及び役員・評議員	3
国際学友会年史	4
本部事務所・学生寮の変遷	6
事業の変遷	8
日本語学校(日本語教室)学生数の推移	17
創立以来の受入れ学生数一覧	18
教科書の変遷	19
思い出のアルバム	22

会長挨拶

財団法人国際学友会

会長 井上 裕

本会は、昭和10年12月、外務省の外郭団体として創立し、昭和15年12月財団法人国際学友会として設立を許可されました。

戦前は、タイ文部省など各国の政府や教育機関と学生交換協定を締結し、海外からの学生を広く受け入れるとともに、我が国の学生を海外に留学させるなどの事業を展開してまいりました。特に、「南方特別留学生」を受け入れ、日本語教育、日常生活の便宜供与、大学等への入学の指導斡旋など、来日から帰国までの間、保護善導し、当時の学生が、帰国し、各国において、指導的立場にあって、自国の発展に尽くし、日本との国際交流に大きな貢献をしてきたことは、広く知られているところです。

終戦直後は、国庫補助金の大幅減額などもあり厳しい状況にもありましたが、昭和26年6月日本語教育を再開し、各国政府派遣技術研修生やインドネシア賠償留学生の受け入れなど、東南アジアの復興等、国の施策を引き受けての事業を展開してまいりました。

昭和54年4月、本会は、その所管が文部省、現在の文部科学省に移管され、昭和57年度から国費高専生の受け入れを行い、各国政府派遣留学生、私費留学生の受け入れと共に日本語教育を中心に事業を行ってきており、最近は特に、国際理解教育や国際交流にも力を注いでいるところです。

本会が今までに受け入れた学生は、122か国・地域19,241名に上り、学業を終えた学生は、自国あるいは日本において、いろいろな分野でめざましい活躍をしています。

今般、政府の諸改革の一環として、財団法人国際学友会は、特殊法人日本育英会、財団法人内外学生センター、財団法人日本国際教育協会及び財団法人関西国際学友会と統合再編され、平成16年4月1日をもって、独立行政法人日本学生支援機構となり、学生支援に関する事業を有機的連携を図りつつ、総合的に実施する機関として、本会の事業も実施していくことになりました。

これに伴い、財団法人国際学友会は、昭和10年12月発足からの68年4か月にわたる活動を閉じることとなります。今後、国際学友会日本語学校は、日本学生支援機構東京日本語教育センター（国際学友日本語学校）として、新たな機構にしっかりと引き継ぎ、更なる発展が図られるよう期待するものです。

これまで、本会の事業にご支援、ご協力を頂きました関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

歴代役員

会 長

初代	近衛 文麿	昭和10年12月～20年12月
二代	濹澤 敬三	昭和28年11月～38年10月
三代	劔木 亨弘	昭和55年2月～平成元年11月
四代	田中 龍夫	平成2年4月～10年3月
五代	井上 裕	平成11年3月～現在

副 会 長

長與 又郎	昭和15年6月～17年—
平賀 讓	昭和17年5月～18年2月
内田 祥三	昭和18年4月～ —
那須 皓	昭和28年12月～39年11月
原 安三郎	昭和28年12月～ —
西 春彦	昭和40年2月～55年2月
伊関 佑二郎	昭和51年2月～53年2月
岩村 忍	昭和53年2月～63年2月
八木 正男	昭和55年2月～62年3月
山中 俊夫	昭和62年4月～平成2年2月
木田 宏	平成元年5月～現在
伊達 邦美	平成2年2月～現在

理 事 長

宮川 米次	昭和15年12月～19年2月
西 春彦	昭和19年3月～19年10月
武富 敏彦	昭和19年10月～21年12月
宮崎 申郎	昭和21年12月～22年12月
守島 伍郎	昭和22年12月～40年2月
大江 晃	昭和40年10月～41年8月
太田 一郎	昭和41年12月～44年9月
黒田 音四郎	昭和44年9月～48年11月
鶴我 七蔵	昭和48年11月～49年4月
篠浦 公夫	昭和49年9月～52年3月
根岸 真太郎	昭和52年11月～57年3月
三浦 勇助	昭和57年4月～60年11月
金田 智成	昭和60年12月～平成元年7月
五十嵐 耕一	平成元年8月～平成8年6月
佐藤 次郎	平成8年7月～現在

専務理事

矢田部 保吉	昭和15年6月～19年3月
竹内 寛	昭和19年3月～19年8月
守島 伍郎	昭和22年11月～22年12月
金澤 謹	昭和40年2月～44年9月
白石 道之助	昭和44年9月～48年11月
篠浦 公夫	昭和48年12月～49年9月
千葉 幸雄	昭和49年9月～53年2月
林部 一二	昭和53年2月～55年6月
金田 智成	昭和55年7月～60年11月
森 和夫	昭和60年12月～62年10月
邊見 儀平	昭和62年11月～平成5年6月
鈴木 尚	平成5年7月～平成9年3月
磯野 守正	平成9年4月～平成13年6月
角地 敏弘	平成13年7月～現在

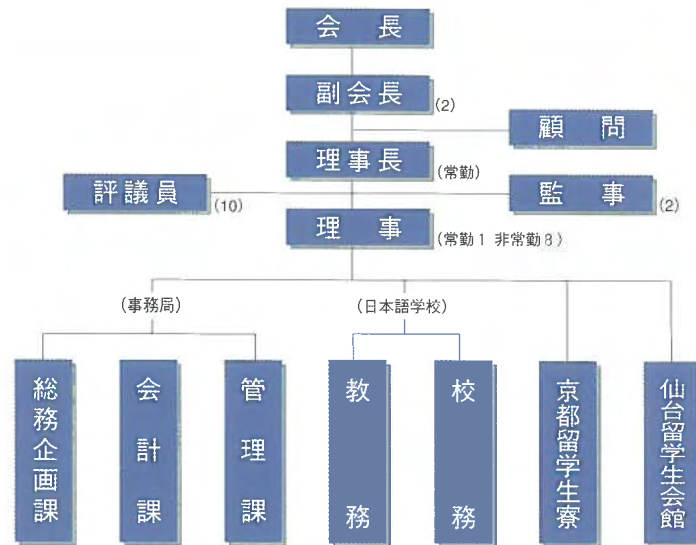
常務理事

渡辺 知雄	昭和11年1月～19年10月
宮崎 申郎	昭和19年10月～21年12月
金澤 謹	昭和23年6月～40年2月
斉藤 健治	昭和40年2月～44年9月
清水 三郎治	昭和44年9月～48年11月
海野 俊介	昭和48年12月～53年2月
浜田 喜美子	昭和53年6月～57年8月

組織及び役員・評議員

平成15年5月1日現在

1 ▶ 組織図



【平成15年度定員 役員(常勤)2人 職員44人 計46人】

2 ▶ 主務官庁

文部科学省

3 ▶ 役員・評議員

会 長	井上 裕	前参議院議長、元文部大臣	監 事	林部 一二	帝京大学名誉教授
副 会 長	木田 宏	(財)新国立劇場運営財団顧問、 元文部事務次官	〃	安嶋 彌	社団法人日本工芸会会長
副 会 長	伊達 邦美	元ブラジル大使	評 議 員	石井 敏夫	財団法人仙台国際育友会理事長
理 事 長	佐藤 次郎	(日本語学校校長)	〃	井上 和子	元神田外語大学学長
専務理事	角地 敏弘		〃	大門 隆	福山平成大学学長
理 事	有山 正孝	前電気通信大学学長	〃	岡崎 真雄	財団法人関西国際学友会理事長
〃	池端 雪浦	東京外国語大学学長	〃	正藤 廣三	元財団法人日本国際教育協会 関西留学生会館館長
〃	植木 浩	財団法人全国書美術振興会理事長	〃	仙石 敬	元トルコ大使
〃	川本 康博	財団法人留学生支援企業協力 推進協会専務理事	〃	泊 龍雄	財団法人内外学生センター理事長
〃	熊谷 直彦	三井物産株式会社相談役	〃	林 大	元国立国語研究所長
〃	櫻井 洗	元奈良先端科学技術大学院大学学長	〃	福田 昭昌	財団法人日本国際教育協会理事長
〃	服部 禮次郎	セイコー株式会社名誉会長	〃	柳澤 健	東京工業大学名誉教授
〃	光田 明正	長崎外国語大学学長			

国際学友会年史

- 昭和 10年12月 外務省の外郭団体として創立 近衛文麿会長就任（昭和20年12月まで）
- 11年 2月 国際学友会館開設 学生受入れ開始 日本語教室開設
- 11年 8月 ローマ中亜極東協会と「日伊学生交換協定」締結（終戦まで）
- 11年12月 ポーランド大学連盟と「日波学生交換協定」締結（終戦まで）
- 12年 4月 日独交換学生ドイツ派遣学生の斡旋決定（終戦まで）
- 14年 9月 ハンガリー文部省と「日洪両国間学生交換取決」締結（終戦まで）
- 15年12月 財団法人として設立の許可を受ける 所管を内閣情報局に移管される
- 17年 1月 タイ文部省と「日泰両国間学生交換協定」締結（終戦まで）
- 17年 7月 仏印総督府文部局と「日仏印学生交換協定」締結（終戦まで）
- 17年11月 所管を内閣情報局及び大東亜省の共管とされる
- 18年 1月 国際学友会日本語学校設置、各種学校として許可される（昭和20年廃校）
- 18年 6月 南方特別留学生の受入れ開始（昭和20年まで）
- 18年11月 福岡支部寮開設（昭和20年閉寮）
- 19年 5月 柏木寮開設（東京本部現在地）
- 20年 4月 京都支部寮開設（昭和24年閉寮）
- 20年 8月 所管を外務省に移管される
- 26年 6月 日本語教育部を設置、日本語クラス開設
- 27年 7月 ユネスコの要請により、アドミニスターリング・エイジェンシーとなる（昭和49年まで）
- 28年 5月 インドネシア政府派遣技術関係留学生の受入れ開始（昭和34年まで）
- 28年11月 澁澤敬三会長就任（昭和38年10月まで）
- 30年 7月 コロンボプランによる技術研修生受入れ開始（昭和36年まで）
- 30年 9月 カンボジア政府派遣留学生の受入れ開始（昭和34年まで）
- 32年 3月 日本語学校新築工事落成
- 33年 2月 国際学友会日本語学校設置、各種学校として認可される
- 34年 4月 福岡支部寮開設（昭和41年閉寮）
- 35年 4月 インドネシア賠償留学生受入れ開始（昭和40年まで）
- 40年 4月 京都留学生寮（京都支部）開設
- 47年 7月 仙台留学生会館（仙台支部）開設
- 53年 8月 東京本部寮、校舎改築、新館開設
- 54年 3月 東北師範大学に赴日本留学生予備学校に日本語教員を派遣する

	54年4月	所管が文部省に移管される 国際学友会留学生医療援助制度発足
	54年8月	文部省準備教育課程として指定される
	55年2月	剣木亨弘会長就任（平成元年11月まで）
	57年6月	マラヤ大学マレーシア政府派遣学部留学生予備教育課程に日本語教員を派遣する
	57年10月	国費外国人留学生（高専日本語特別講座）の受入れ開始 半年間の日本語教育を実施
	58年4月	マレーシア政府派遣留学生（国立高等専門学校進学者）受入れ開始
	58年10月	国際交流基金から「国際交流奨励賞」受賞
	59年4月	シンガポール政府派遣留学生（大学学部進学者）受入れ開始
	60年4月	インドネシア政府派遣留学生受入れ開始
	62年4月	国際学友会奨学金制度発足
平成	2年4月	田中龍夫会長就任（平成10年3月まで）
	2年6月	東京本部留学生寮等増改築
	3年3月	仙台留学生会館別館新築（仙台支部）
	3年4月	ブラジル政府派遣留学生受入れ開始（平成7年まで）
	4年4月	タイ政府派遣留学生受入れ開始
	4年7月	マレーシア工科大学高専予備教育課程に日本語教員を派遣する
	6年3月	京都留学生寮東館、西館増築（京都支部）
	7年4月	国費高等専門学校課程1年となる
	8年4月	アラブ首長国連邦政府派遣留学生受入れ開始
	8年4月	A Y Fマレーシア予備教育センターに日本語教員を派遣する
	9年10月	ウズベキスタン政府派遣留学生受入れ開始 クウェート政府派遣留学生受入れ開始
	10年4月	国立インドネシア大学文学部言語センター私費インドネシア人留学生渡日前予備教育特設コース開設（平成14年まで）
	11年3月	井上裕会長就任
	11年7月	韓国外国語大学日本語科東京日本語・日本文化研修受入れ開始
	13年7月	国際交流の促進に尽力したことにより、「外務大臣表彰」を受ける

本部事務所・学生寮の変遷

1 ▶ 本部事務所

- 東京都淀橋区西大久保 1 の 458 (昭和10年12月創立～昭和17年6月)
- 東京都目黒区上目黒 2 の 1985 (昭和17年6月～昭和20年10月)
- 東京都渋谷区原町 1 (昭和20年10月～昭和27年3月)
- 東京都渋谷区猿樂町 39 (昭和27年3月～昭和29年3月)
- 東京都新宿区柏木 4 の 895 (現北新宿 3 の 22 の 7) (昭和29年3月～昭和52年8月)
- 東京都港区赤坂 6 の 5 の 31 (昭和52年8月～昭和53年9月)
- 東京都新宿区北新宿 3 の 22 の 7 (昭和53年9月～現在に至る)

2 ▶ 学生寮

- | | | |
|---------------------------|-----------------------|------------------------|
| ● 国際学友会館
(大久保寮) | 淀橋区西大久保 1 の 458 | (昭和11年11月～昭和18年5月、被戦災) |
| ● 女子寮 | 都内杉並区馬橋 3 の 378 | (昭和15年～昭和16年、返還) |
| ● 柏木寮 | 都内淀橋区柏木 4 の 895 | (昭和19年～昭和27年7月) |
| ● 国際学友会館
(国際学友会日本語学校寮) | 都内新宿区北新宿 3 の 22 の 7 | (昭和27年7月～現在) |
| ● 本郷寮 | 都内 | (昭和18年～昭和20年、被戦災) |
| ● 目黒男子寮 | 都内目黒区上目黒 2 の 1985 | (昭和17年～昭和26年、返還) |
| ● 京都寮 | 京都市左京区蔦町 20 | (昭和20年～昭和24年、返還) |
| ● 京都留学生寮 | 京都市東山区山科御陵池堤町 28 | (昭和40年4月～現在) |
| ● 福岡支部寮 | 福岡市 | (昭和18年～昭和20年、被戦災) |
| ● 福岡支部会館 | 福岡県粕谷郡古賀町中川 1336 | (昭和33年～昭和41年、閉鎖) |
| ● 鎌倉寮 | 神奈川県 | (昭和20年～昭和23年、返還) |
| ● 鶴巻寮 | 神奈川県 | (昭和一年～昭和21年、返還) |
| ● 仙台留学生会館 | 仙台市原町小田原字安養寺下 82 の 11 | (昭和47年7月～現在) |

3 ▶ 寄託団体寮 (昭和18年～昭和20年)

- 大東亜寮 (新興亜会)
- くじゃく寮 (ビルマ協会)
- 南洋寮 (南洋協会)
- フィリピン寮 (フィリピン協会)
- 日タイ学院寮 (日タイ学院)

4 ▶ 中国学生寮 (昭和21年日華学会の解散により本会に委譲されたが、昭和22年8月有隣学会に引継いだ)

- | | |
|----------------|--------------|
| ● 光華寮 (京都市) | ● 広島寮 (広島市) |
| ● 吉田学寮 (京都市) | ● 志学寮 (仙台市) |
| ● 稲毛学寮 (千葉市) | ● 中江寮 (仙台市) |
| ● 鳥取日華学寮 (鳥取県) | ● 山形寮 (山形市) |
| ● 興亜学寮 (神戸市) | ● 蒙古学寮 (盛岡市) |
| ● 秋田学寮 (秋田市) | ● 盛華寮 (盛岡市) |
| ● 札幌学寮 (札幌市) | ● 麴町学寮 (都内) |
| ● 金沢学寮 (金沢市) | ● 玉川学寮 (都内) |
| ● 新潟学寮 (新潟市) | ● 文虎社 (都内) |
| ● 山口学寮 (山口市) | ● 神田学寮 (都内) |
| ● 一徳寮 (京都市) | ● 後楽寮 (都内) |

5 ▶ その他宿舎

昭和28年5月 来日したインドネシア政府派遣技術研修生60名を収容するため、下記宿舎を開設した。

● 吉祥寺寮 / 武蔵野市吉祥寺702

昭和28年2月1日開設、インドネシア政府派遣技術研修生17名収容、同年7月17日目黒寮開設に伴い閉鎖。

● 野沢寮 / 世田谷区野沢町1の33

昭和28年5月20日開設、インドネシア研修生21名収容、第2別館の完成に伴い29年5月7日閉鎖。

● 上馬寮 / 世田谷区上馬町2の22

昭和28年5月20日開設、インドネシア研修生22名収容、実習開始により29年1月26日閉鎖。

● 目黒寮 / 品川区上大崎4の236

昭和28年7月17日 吉祥寺寮を閉鎖して開設、インドネシア研修生17名収容。